

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (こども学科)

○令和5年度の後期科目・通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。

(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果】

- ・各科目で内容の適切性や開講時期が肯定的に評価されており、教育課程は概ね適切であるといえる。
- ・全体として、開講時期などに大きな問題はなく、適切な課程となっている。
- ・ピアノ基礎から子どもの歌伴奏法、声楽から多種の選択音楽へと学びの流れがある。他の領域科目との整合性もとれつつある。
- ・それぞれの科目において、発表、模擬保育など、主体的な学びが積極的に取り入れられている。
- ・授業における保育現場での参与観察、保育現場の写真や動画、保育者からの経験話などを通して、保育の実際に触れることで、子どもや保育に対する理解を深めることができたと考える。

【課題】

- ・隣接科目を学科の専任教員と他学科の専任教員や非常勤講師でそれぞれ担当している場合、内容の棲み分け等の調整がしづらい。
- ・「子どもの○○」の4科目間における連携がさらに求められる。
- ・専門外の一部の科目で、本学科の履修学生がいなかった点は今後の課題である。
- ・教育実習指導と保育実習指導の連携の強化、事務手続きを含めた対応の調整が必要。
- ・授業において、受講者同士で授業内容について対話や発表をする（グループワーク）など、自ら能動的に学ぶことを促進する機会（主体的、対話的で深い学び）が足りなかったと考える。

【その他・今後の検討事項等】

- ・科目担当教員の変更によって科目の内容も変更された際に、その科目を軸に各科目の内容等を検証する必要がある。
- ・指導体制の強化・教育実習を含めた実習指導体制全体の見直しが必要と思われる。
- ・保育に携わる者（保育者養成課程の学生）として、子ども観や保育観をもつことができるように、授業内容や授業方法などの考察を行う。